様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　６ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００５１９

研究課題名（和文）15-6世紀ヒンディー語3文芸方言の作品と言語の横断的研究

研究課題名（英文）Comparative study of three early Hindi dialects and literature

研究代表者
長崎　広子（Nagasaki, Hiroko）

大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・教授

研究者番号：７０３６２７３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：古ヒンディー文学の海外の研究者（Aleksandra Turek博士、Jaroslav Strnad博士）と長崎広子との共同で、古ヒンディー文学のテキスト解釈を統一した形式でまとめ、地域差と文学様式の異なる15-6世紀のヒンディー文学を共時的に比較考察しその全体像を明らかにした。
古ヒンディー文学のなかで、Avadhiによるスーフィー文学とSadhukkari Bhashaによるニルグナ文悪とRajasthani方言によるディンガル文学のサンプル・テキストを選択し、グロス付与、英訳、文学的解釈の説明を加え、語彙集とテキストを出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
古ヒンディー文学の研究では文語であるBraj Bhasha文学の研究が中心的であるが、地方や宗派によって異なる文法と文学スタイルがあり、それらを統一した形式で文法を中心に比較した研究は少ない。本研究では、３つの言語(Avadhi, Rajasthani, Sadhukkari Bhasha)とその文学の詳細な文法記述とテキストサンプルとその解釈を統一形式で考察した。その成果を書籍Triveniと題して出版し、特に文法記述において当該分野における先駆的な試みとして海外の研究者から多くの反響があった。

研究成果の概要（英文）：In a collaborative effort, Dr. Aleksandra Turek, Dr. Jaroslav Strnad, and Hiroko Nagasaki unified the textual interpretations of ancient Hindi literature, conducting a synchronous comparison of regional differences and literary styles in 15th and 16th century Hindi literature to illustrate its overall structure. They selected sample texts from various genres within early modern Hindi literature, including Sufi literature written in Avadhi, the Nirguna Bhakti literature by Sadhukkari Bhasha, and Dingal literature by Rajasthani. They provided glosses, English translations, and literary interpretations, culminating in the publication of a vocabulary collection and the texts.

研究分野：ヒンディー文学

キーワード：ヒンディー　アワディー　ラージャスターニー　ブラジ・バーシャー　Avadhi　Rajasthani　ヒンディー文学　Hindi Literature

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ヒンディー語は、現在では北部を中心にインドの主要な公用語であるが、その歴史は萌芽期を含めれば約千年前からともいわれ、写本から実際に確認できる文学活動は 13 世紀ごろからである。本研究で扱う 15-6 世紀は、神への信愛を民衆の言葉で詠ったバクティ詩が数多く生み出されたヒンディー文学の黄金期である。バクティ文学で特徴づけられる時代とはいえ、ヒンドゥー藩王国の庇護のもとでは古典的な文学伝統を踏襲した宮廷文学がヒンディー語の中部方言であり文語であるブラジ・バーシャーで創作され、ムガル帝国の宮廷ではペルシア文学の影響を受けたヒンディー宮廷文学（韻文学）が生まれた。歴史的には、ムガル帝国がヒンドゥー諸王朝と抗争を繰り返し、北インドで支配権を拡大した時代である。しかし、ヒンドゥー教徒をイスラム教徒のムガル皇帝が一方的に抑圧するというかつて想定されていた構図は最新の研究によって再検討され、ヒンドゥー教とイスラム教の交流に研究の注目が集まっている。本研究課題は、文学作品に用いられる主題、語彙、様式をとおして、宗教や宗派や文学ジャンルの違いを超えたヒンディー文学の共時的共通性に注目する。

古ヒンディー語は、今日の標準ヒンディー語とは文法が異なるが、文法記述がされてこなかったため、言語が障害となって、長らくその研究はインド国内の研究者による写本からのテキスト校訂と思想研究にゆだねられてきた。インド古典のサンスクリット文学では文法学が発達し、文法やその注釈を著した文法家が存在したのとは異なり、古ヒンディー文学では文法学はそもそも存在していなかったようである。信頼に足る文法は、時代が下がりイギリス植民地時代に G.A. Grierson が行った言語研究（1898–1928）と、S.H. Kellogg が著したヒンディー文法（1876）と、近年では R. Snell が著したブラジ・バーシャーの読本（1991）である

Snell の読本にはブラジ・バーシャーの簡略な文法説明とサンプル・テキストと英訳が記され、入門書ではあるものの当該分野の研究者によって最も利用されている古ヒンディー文法である。しかしその出版からおよそ 30 年間で、中部方言のブラジ・バーシャー以外に西部ラージャスターニー方言や、東部アワディー方言のテキスト研究も大いに進んできた。特に過去 10 年で、辞書の出版（Callewaert 2009）やヒンディー語の宮廷文学の研究（Busch 2011）や詩人カビールの作品に対する語形論（Strnad 2013）など、欧米の研究者によってめざましい成果があげられている。研究代表者は中部ブラジ・バーシャー方言と東部アワディー方言の文学と韻律を研究してきた。特に韻律ではヒンディーの音韻リズムの時代ごとの変化の過程と原因を明らかにし、また 17 世紀の Sukhdev Mishra の著したヒンディー詩論書の写本から古ヒンディー文学特有の韻律の規定方法を研究し、これらの成果を国内外で発表してきた。古ヒンディー文学の欧米の研究者とはこれまでの研究をとおして国際共同研究を行う十分な準備状況にあった。

２．研究の目的

本研究の目的は、古ヒンディー文学のテキスト解釈を統一した形式でまとめ、地域差と文学様式の異なる 15-6 世紀のヒンディー文学を共時的に比較考察しその全体像を明らかにすることである。

古ヒンディーは格を表す明示的形態法をもたないうえに、その文学は韻文で押韻を優先して破格の文法が用いられる。これまではテキスト解釈のための文法説明は語形を簡略に挙げるのみで、現代ヒンディー語訳や英訳などの訳出を頼りに意味を理解するしかなかった。また、古ヒンディー文学に通じた現地の研究者とともに写本を調査しテキストを読み進めてきたが、インド国内の古ヒンディー文学研究が研究者の高齢化によって衰退しており、テキスト解釈をマニ

ュアル化して残すことは急ぎ取り組まなければならない課題である。本研究では地域とジャンルの違いに基づきサンプル・テキストを選び、そこにグロス（語注）を記すことによって、正確なテキスト理解を導き出す。この方法は、古ヒンディー文学においてこれまで行われてこなかったものである。

３．研究の方法

研究代表者が過去の科研費補助金研究によって作成公開してきた古ヒンディー文学の電子テキスト（トゥルシーダース、スールダース、ラヒーム、ジャーエスィー、ラスカーン）と、ローザンヌ大学で公開されているカビールの電子テキストにくわえ、電子テキスト化されていない西部方言ラージャスターニー文学や本研究課題で必要な作品は順次電子テキストを作成する。電子テキストを用いる理由は、検索機能の利便性にある。古ヒンディーは地域差や詩人の属する宗派や作品のジャンルによって文体差が大きいが、作品には宗派やジャンルの枠を超えて同様の主題や慣用句が用いられており、本研究で電子テキストを使用し、主題と慣用句のコーパスを作成することで、15-6 世紀の古ヒンディー文学全般に共通する文法や語彙の分布が明らかになる。これは、古ヒンディー語の言語の解明にくわえて、これまで詩人やその作品を帰属する宗派の枠内で論じてきた議論に対して数量データを提示し、ひいてはさらなる思想研究に発展させることを目指しており、この点に本研究の創造性がある。

なお、新型コロナ感染症の世界的流行によって研究会を行うことができなくなった時期もあったが、収束に向かいはじめた頃から長崎と Aleksandra Turek 博士（ワルシャワ大学）と Jaroslav Strnad 博士（チェコ科学アカデミー）が３名で定期的にオンライン研究会を開催した。電子テキストを使って主題と慣用句のコーパス作成から研究をすすめ、最終的に古ヒンディーのなかの Avadhi（長崎担当）と Rajasthani（Turek 担当）と Sadhukkaṛī Bhāṣā（Strnad 担当）の３言語にしぼってサンプル・テキストを選択し、文法を記述したうえで詳細な用例をサンプル・テキストから付した。そこに現れた３言語の語彙集作成、テキストの英訳、文学的解釈の記述を進めた。これらをもとに作成した古ヒンディー語のテキストを、Imre Bangha（オックスフォード大学）の開催するオンラインのブラジ・バーシャー研究会で Turek がセッション・リーダーとして使用し、クロアチアで開催された古ヒンディーの研究会で Strnad が講師として教材として使用したうえで、記載すべき必要事項が見つかれば、その都度統一した形式で情報を加えた。また、古ヒンディー文学の地域ごとの言語地図を作成した。

2022 年に研究代表者が大阪大学で開催した国際学会 The 14th International Conference on Early Modern Literatures of North India (ICEMLNI)では長崎と Turek と Strnad が扱うテキストの文学的解釈についての研究発表を行った。

４．研究成果

Avadhi（長崎担当）と Rajasthani（Turek 担当）と Sadhukkaṛī Bhāṣā（Strnad 担当）の３言語に関して、文法において共通する部分を軸として、異なる点が明らかになったことが大きな成果である。Sadhukkaṛī Bhāṣā と Avadhi 間により多くの共通性がある一方で、相違点としては、Avadhi では動詞の時制 Preterite が発達し、能格は受動態が代替として用いられるといった特徴が明らかになった。また Rajasthani 文法は、ほかの２言語との共通項よりも異なる要素が多いことが特徴である。たとえば、名詞と形容詞の語末の-e は男性複数以外にも多くの場合に用いられ、absolutives で用いられる-nai など Rajasthani 特有の文法形態が多く見られることが分かった。

これらの文法を整理し記述した成果は 2023 年に、共著書 *Triveṇī - Texts of Three Literary Traditions in Early Modern Languages of North India* (217 p.)として出版することができた。Jāyasī’s

Padmāvat by Hiroko Nagasaki (pp. 15-59)、Kabīr's Pads by Jaroslav Strnad (pp. 61-127)、Pṛthvīrāj Rāṭhauṛ's Veli by Aleksandra Turek(pp.129-187)の３部からなり、Avadhi と Sadhukkaṛī Bhāṣā と Rajasthani の統一した形式での詳細な文法は、当該分野で初めての試みである。３言語の共通項については、General Notes on Grammar (pp. 1-7)で歴史的な発展を含めて著した。また、長崎は書籍の中で、３言語のサンプル・テキストの韻律分析 (pp. 8-14) を行い、それぞれの形式について解説した。Avadhi の Padmāvat では本来四行詩である caupāī が半句で用いられて７行を構成し、それに２行詩 dohā を組み合わせた詩節が詩集全体で用いられている一方で、Sadhukkaṛī Bhāṣā のカビールのテキストでは歌唱により傾斜した Pad という韻律形式のなかでモーラ韻律の自由な組み合わせが存在しており、Rajasthani の Veli ではほかの２言語にはない sāṇor という名の韻律形式が用いられ、そこでは２モーラ数の増減の自由度があることを指摘した。

書籍出版後に、研究会での使用をへて改訂した版を電子書籍として大阪大学のアーカイブ（大阪大学学術情報庫 OUKA）で公開し、多くのアクセスと反響があった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 Hiroko Nagasaki	４．巻 なし
２．論文標題 Jayasi’s Padmavat	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Triveni	６．最初と最後の頁 15-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/94759	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 長崎広子	４．巻 20
２．論文標題 クリシュナ・バルデーオ・ヴァイド著「前世の話だ」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 印度民俗研究	６．最初と最後の頁 47-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 長崎広子	４．巻 第72巻第3業
２．論文標題 古ヒンディー文学研究合宿	５．発行年 2020年
３．雑誌名 生産と技術	６．最初と最後の頁 76-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 長崎広子	４．巻 別巻６
２．論文標題 シロ　リス太郎	５．発行年 2020年
３．雑誌名 印度民俗研究	６．最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 長崎広子	4．巻 19
2．論文標題 ヒンディー韻律書に著された算数	5．発行年 2020年
3．雑誌名 印度民俗研究	6．最初と最後の頁 73-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hiroko Nagasaki	4．巻 45
2．論文標題 The Rhythm of Hindi Poetry and When Short a Stopped Being Pronounced	5．発行年 2023年
3．雑誌名 東京大学言語学論集	6．最初と最後の頁 141-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hiroko Nagasaki	4．巻 なし
2．論文標題 Encounter with the Hagiographies of the Poet-Saint Tulsidas	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Significant Others, Significant Encounters	6．最初と最後の頁 221-235
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11588/HASP.1155	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hiroko Nagasaki	4．巻 なし
2．論文標題 The Metrical Style of Tulsidas	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Early Modern India. Literatures and Images, Texts and Languages	6．最初と最後の頁 289-304
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11588/XABOOKS.387	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　3件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 Hiroko Nagasaki
2．発表標題 Another Surdas
3．学会等名 The 14th International Conference on Early Modern Literatures of North India（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Hiroko Nagasaki
2．発表標題 Mul gusain charit men varnit Tulsidas
3．学会等名 ベナレス・ヒンドゥー大学 Malaviya Moolya Anusheelan Kendra（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Hiroko Nagasaki
2．発表標題 Questioning the Hindu Traditional Values-Krishna Baldev Vaid’s Short Story Bodhisattva ki Bivi
3．学会等名 PKU South Asian Forum for Distinguished Scholars Lecture Series（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 長崎広子
2．発表標題 Hindi to Japanese Machine Translation
3．学会等名 Panel Discussion on "the historical and present problems of Hindi to Japanese translation"Vishwa Hindi Diwas（招待講演）
4．発表年 2022年

〔図書〕　計3件

1．著者名 Maya Burger, Nadia Cattoni (eds.), Hiroko Nagasaki	4．発行年 2019年
2．出版社 Xasia	5．総ページ数 356
3．書名 Early Modern India Literatures and Images, Texts and Languages	

1．著者名 Hiroko Nagasaki, Jaroslav Strnad, Aleksandra Turek	4．発行年 2023年
2．出版社 Kotoba Books	5．総ページ数 217
3．書名 Triveni	

1．著者名 Philippe Bornet, Nadia Catton (eds.), Hiroko Nagasaki	4．発行年 2023年
2．出版社 HASP	5．総ページ数 336
3．書名 Significant Others, Significant Encounters Essays on South Asian History and Literature	

〔産業財産権〕

〔その他〕

http://hin.minoh.osaka-u.ac.jp/
Resources on Hindi and other Languages

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計3件

国際研究集会 The 14th International Conference on Early Modern Literatures of North India	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Monika Horstmann博士講演会	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Pegah Shahbaz博士講演会	開催年 2020年～2020年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関